

I 共創型探究学習(CAN)の発表会に小学生と高校生が参加

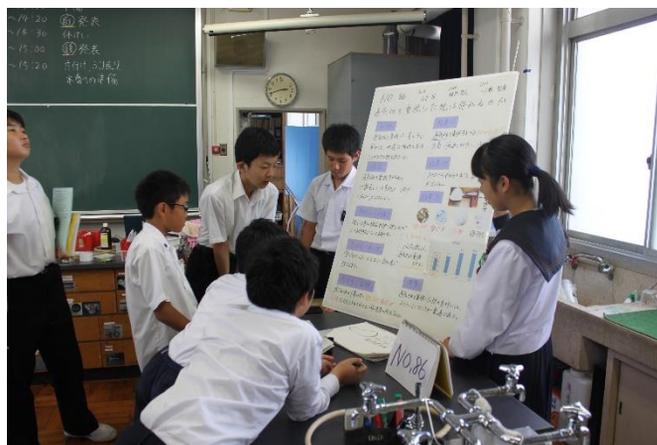
文部科学省の研究開発学校の指定を受けて取り組んでいる「共創型探究学習(CAN)」の中間発表会を、10月16日(水)の午後に開催した。

この学習では、各学年の生徒1名ずつ計3名の異学年小集団(クラスター)を編成し、普段から不思議に思っていることや身近な関心事などをもとに自ら課題(問い)を設定し、その解決に向けて1年間探究活動を進めていく。探究過程では様々な壁があり、試行錯誤を繰り返して解決への道を探ったり、大学教授や企業の方など多くの専門家に助けをもらったりしながら乗り越えていく。「知りたい」「調べたい」「伝えたい」といった学ぶ意欲を高めながら、仲間と知恵を出し合い協力し合いながら、主体的に学び続ける真の探究活動をめざしている。

今回は、附属小学校の6年生が発表を聞いて、中学生の学びのすごさを実感したり、半年後からスタートするこの学習に意欲を見せたりした。また、坂出高校の教育創造コースの生徒も参加し、これまでアドバイスをしてきたクラスターに温かい声をかけたり、発表を聞いてそれぞれのグループの評価を行ったりした。今後、特に優秀な探究を行ったクラスターには、CAN賞という優秀賞だけでなく、高校生が選んだ優秀賞も準備して発表する予定である。



①伝えたい気持ちを全面に出しながらの発表



②聞く側も食い入るように発表を聞く



③これまで集めた多くの資料をもとに発表



④小学生も中学生も高校生も一緒になって



⑤真剣に発表を最後まで聞く小学生



⑥発表を聞いて評価をしてくれる高校生

発表した中学生の声(一部)

- ・高校生や小学生に聞いてもらうのは少し緊張して伝えたいことが伝えられるか不安でした。しかし、うなずきながら聞いてくれたり質問をしてくれたりした時は、分かってきているんだと思い安心しました。
- ・たくさんの質問をもらい、自分たちがこの探究で足らなかったこと、欠けていたことに気づくことができました。これから本番の発表に向けて工夫できる点や改善点を見つけて頑張りたいです。
- ・小学生や高校生に聞いてもらい、自分たちが想像していなかった質問や指摘があり、新たな課題がたくさん出てきました。CANは、異学年3人で名前も知らない状態から始まり、3人で1つの目標に向かって努力ができ、達成感がとてもあります。残りのCANの時間を精一杯頑張ります。
- ・今日の発表は100点満点中80点です。声の大きさなどには気をつけていたけど、実物を見せる時間が短かったり、説明不足のところがあったりしたからです。本番の発表ではうまく伝わるようにしたいです。

参加した高校生の声(一部)

- ・自分たちでテーマを決めて考察までまとめることもすごいけれど、まとめ方が各グループで違った工夫をしていて、とても分かりやすかったです。
- ・少し恥ずかしそうでしたが、全員一生懸命に発表ができていた。内容も濃くて参考にしたいものばかりだった。
- ・中学生の発想力の豊かさに驚くばかりでした。私も高校生として負けていけないと思いました。
- ・どのグループもくわしく調べられていた。失敗しても、次はこうすれば良くなるのではと、色々アイデアを出していたのがすごかった。
- ・附中生のみなさんは、自分たちが考える疑問を実験、インタビュー等を通して情報を収集し、考察を通して考えています。そのような体験はなかなかできることではないので、今後もよりクオリティの高いCANをめざしてほしいです。

参加した小学生の声(一部)

- ・中学校ですることの実感がわいた。中学生になって早くCAN学習に参加したいと思った。
- ・繰り返し何度も実験することや、色々なやり方で実験することも大切だと分かった。専門家に質問することも大切なことだと分かった。
- ・質問に対してしっかりと答えられていてすごいと思った。私は授業の中で質問されたら答えられないことも多いので、中学生みたいに質問に答えられるようになりたい。
- ・中学生の発表を見て、自分にはまだ調べたことをまとめる力がないなと感じた。中学生の発表から学びたいと思った。
- ・今回の発表を聞いて、テーマが生活に生かせたり、人のためになったりすることだったので、自分も人のためになるかを考えて、これから調べていくテーマを決めたり、選んだりしていきたいと思った。
- ・色々な観点で実験をしたり、調査をしたりしているのがすごいなと思った。